

囲碁入門講座通信 令和3年 第26号



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところです。 **現在休局中です**

(棋士名は碁に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語等を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

攻め合いに強くなるためには

実戦では、様々な形の攻め合いが生じます。前号の問題では相手の目を奪って「眼あり眼なし」になるのを先手で防ぎましたが、逆に「自分の側に一眼を確保すれば勝ち」という場面もあるでしょう。

いずれにしても、攻め合いに勝つためには、

①相手の手数を縮めること、

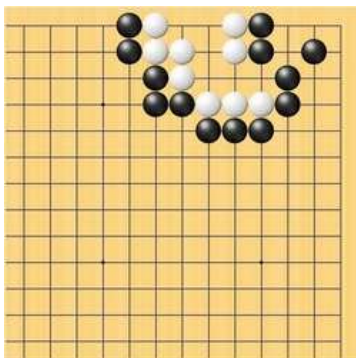
②自分の手数を伸ばすこと、

の両面から考えていかなければなりません。

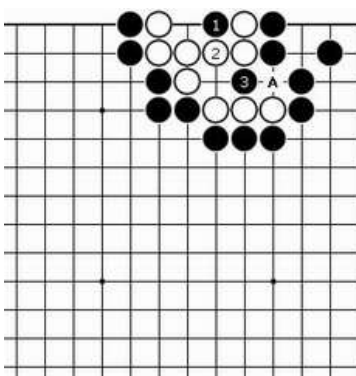
そのためには、やさしい手筋の問題をたくさんこなすことが大事です。もちろん詰碁も役に立ちます。難しい問題を避け、何とか解ける問題に繰り返し取り組んでください。トレーニングを続けるうちに、直観力が磨かれ、一目で急所がわかるようになるでしょう。

詰碁問題1 黒番

白を取ってください。

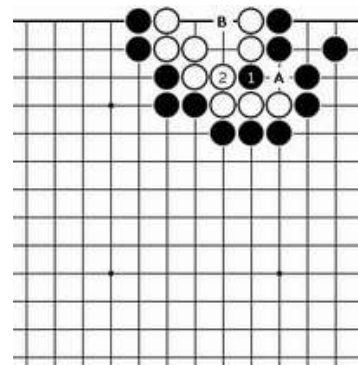


正解と解説



ヒント

黒1と地を狭めるのは、白2の後、白Aと白Bが見合いで白が生きてしまいます。



問題1 正解図

黒1と先に眼の急所に打ち、白2を待って黒3がうまい手です。白Aがダメ詰まりとなって、白死。

碁が強くなるためには、何といたって死活や戦いに強くなるのが大事。そのためには、石が接触したときのヨミと直観力を養うことが欠かせません。今号からは戦いに強くなるためのヒントとして、(やさしい)詰碁や手筋、攻め合いなどの問題を、出題して参りたいと思います。(有楽斎)